

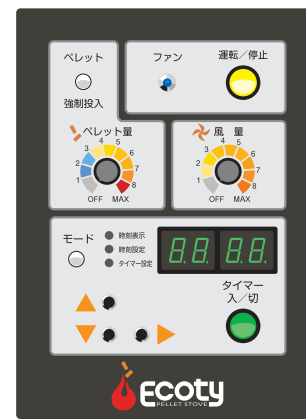
初の自社ブランド商品の開発・販促を 公的産業支援が陰に日なたに支えて…



↑ 燃料のペレット。最大熱量は8600kcal（ホワイトペレットの場合）で、調整で15%まで落とすことができる。



← 「同レベルのペレットストーブの中で、ガラス面が一番大きく、横からも炎が見えるのはこれだけ」と西村社長自信のペレットストーブ「エコティ」。



↑ 運転/停止ボタンを押すだけで簡単に始動。ペレット量、温風量はつまみを回して調整する。タイマーで運転開始時間をセットすることも可能だ。

→ 30畳程度の部屋も、このエコティ1台で温かくなる。輻射熱により、温かさが軟らかい。



たが、西村社長はその逆を行こうというのだ。また従来のストーブは、角張ったデザインのものかほとんどであったが、同社では金属加工の技術を応用してコーナーに丸みを持たせ、温かみのある意匠にした（意匠登録済）。

さらには従来品は、ペレットに着火するまでに4分ほど要していたが、同社ではそれをほぼ半分に。着火装置を新たに開発し（特許申請済）、2分程度でペレットが燃え出す仕組みを考案。こうして「エコティ」と名づけられた、西村精工ブランドのペレットストーブが、誕生したわけだ。

「多少高価でも、品質・性能の良いストーブを目指しました。エコティ1台で30畳の部屋を温めることができます。燃料費は灯油ストーブとほぼ同じ。輻射熱の効果により温かさが軟らかく、満足のいくストーブになりました。ただ、売り出すことを目前にした時、2つのことで不安になったのです」（西村社長）

そのひとつは、ストーブのデザイン。そしてもうひとつは、エコティを販売していくにあたっての販売店との契約をどうしたらいいのかというものだ。時は'10（平成22）年12月。西村社長は1年9か月前のレクチャーを思い出し、再び当機構を訪ねた。

デザイン、契約書の内容、販促で支援

相談を受けた当機構では、富山県総合デザインセンターに協力要請し、プロダクトデザイナーF氏のアドバイスを受けることに。一方の契約書の内容については、当機構・中小企業支援センターの専門家派遣制度を利用して、契約・知

財に詳しい専門家を同社に派遣。ベースとなる文案作成のアシストをした次第だ。

「ものづくり一筋に40年以上やってきた会社です。生産・製造の契約はわかりますが、販売店との契約については、見当がつかせませんでした。そこで指導を受けることにしたのですが、専門家の方に契約書の文案までつくっていただいて助かりました。またデザイナーのアドバイスも的を射たもので、さっそくストーブの意匠を変えました」

不安を解消した西村社長。その後は、北陸各県で薪ストーブを扱うお店、あるいは住宅設備用品を扱う販社などを訪問し、エコティ取扱店の確保に乗り出した。

本格的な販売は、'11（平成23）年初冬からであるが、当機構ではその年の初めに、同社の試みを支援しようと、事業評価支援検討委員会に諮って了承を得、10月には、エコティを県のトライアル発注制度に登録するためのサポートも実施した。（トライアル発注制度とは、県が認定した中小企業者等の開発した新商品を、県が試し買いし、使用後の意見をフィードバックする制度。認定した商品は、県庁各課・出先機関に周知し、性能等を考慮したうえで、優先的な調達に努める）

また同じく10月には、中小企業販路開拓総合助成事業を利用してエコティのパンフレット5,000部の作成を支援し、ストーブ商戦本番に備えた。

「年末から1月中旬までで、十数台売ることができ、販促支援のおかげと感謝しているところです。将来的には、年間100台は売れるようにしたい!」

西村社長が持つ“営業のペレット”に、火がついたようだ。

支援内容

- 専門家派遣事業
- 事業評価支援検討委員会付議
- 県トライアル発注制度登録支援
- 中小企業販路開拓総合助成事業



以前から経営の5カ年計画を立ててきた西村孝社長。3年前に始まった現5カ年計画では、「自社ブランドの商品をつくることを目標にした」という。

profile

所在地 南砺市天神56
代表者 西村 孝
資本金 1800万円
従業員 30名
事業 プレス・板金によるバイクの部品、店装品などの製造
TEL 0763-52-0037
FAX 0763-52-5893
URL <http://www.nishimura-sk.co.jp/>
<http://www.ecoty.info/>

テレビなどで、石井隆一富山県知事が「産学官連携や中小企業の支援を積極的に展開する」とコメントするのを何度か聞いた西村孝社長。「では担当部署に行って、具体的にどんなメニューがあるのか聞いてみよう」と動き出した。同社は従来、プレスや板金によりバイクの部品、店装品などを生産してきたが、自社ブランドの製品としてペレットストーブ（間伐材を粉碎してペレット状にしたものを燃料にする薪ストーブの一種）の開発を企画していたところだった。

県経営支援課で当機構を紹介され、さっそく訪問（'09（平成21）年3月）。商品開発・販路開拓のための資金的、技術的、人的な助成制度全般と、技術開発のための産学官連携と当機構のサポート、また各種専門分野の相談受付の体制など、一通りの産業支援施策のレクチャーを受け、その上で西村社長はペレットストーブの開発に乗り出した（開発は自社で）。

販売直前に、再び機構へ

開発にあたって留意したのは、ガラス面をなるべく大きくし、しかもそのガラスを曇りにくくすること。従来のペレットストーブでは、煤^{すす}などによってガラスが短時間で曇ってしまう。そのため、掃除の負担を軽くしようとガラス面を小さくしてき